

旧大竹酒造煉瓦蔵

資料

所在地	前橋市三河町一丁目 28-23
所有者	前橋市
構造・形式及び大きさ	煉瓦造 2階建 瓦葺 建築面積 236 m ²
建築年代	大正後期
該当する登録基準	(1) 国土の歴史的景観に寄与しているもの
概要	

旧大竹酒造煉瓦蔵は煉瓦造2階建、切妻造棧瓦葺（5.4寸勾配）、和小屋組、南北を桁行とし南側を正面としている。規模は桁行25.786m、梁間9.160m、桁高5.577m、建築面積は236.19m²である。かつて酒造施設の仕込み蔵として使われていた。外壁は赤煉瓦（一部焼過煉瓦）イギリス積みで壁厚が一枚となっている。内部は、1階が床をモルタル金鍍仕上げ、壁を珪藻土塗り、天井を当初の床板を撤去した大引・根太現しとし、2階は床を大引・根太現し、壁を珪藻土塗り、天井を屋根裏現しとしている。1階は間仕切りのない一室空間であり、4面に開口部を設けている。2階も床板が取り外されているが一室空間である。これは、1階で酒造桶を並べて仕込みを行い、2階では、酒母作り等の作業を行っていたのではないかと推定される。

外観上の煉瓦積みの特徴は、軒蛇腹・破風・開口部周り（一部）・柱型（一部）・外巾木等に焼過煉瓦を使用し、持送り積みで立体感のある装飾が施されている。開口部上部は弓形アーチで粗迫持（アチリチ）となっている。出入口の巻厚は4枚巻で焼過煉瓦を用い要石を模し、窓は2枚巻とする。これらにみられるように、比較的凝った意匠でまとめている。

当建物は建造年代を直接示す棟札や施工者についての資料等を残していない。創業にあたり昭和8年（1933）に購入したものであり、固定資産課税台帳では、大正12年となっている。煉瓦積み比較的凝った意匠が見られること、大きさや色調等の煉瓦の特徴、台帳の年代などからみて、大正後期の建造と推定する。

当建物は平成25年に前橋市の所有となり、その後多目的イベントホールとして多くの市民に利用されている。平成26年度は28回の行事が開催され、来場者数は延べ5,000人を数え、現在も活用されている煉瓦蔵である。

【写真】



外観全景 南側道路から見る



煉瓦蔵内部 北側より南入口を見る



焼過煉瓦による軒蛇腹及び破風の様子



南側入口の粗迫持（弓形アーチ）と焼過煉瓦で要石を模した様子